世界の靴物語 ①

文・画　神奈川県企業博物館連絡会特別会員　**福　原　一　郎**

イギリス
full brogue
フル・ブローグ

紳士の革靴の中で最も豪華で靴らしい靴といえば、ウイングチップのフル・ブローグであろう。ウイングチップとは爪先に翼を広げたようなW型の切替えがあるもので、日本では「おかめ飾」として昔から親しまれてきた。

ブローグとは、16、17世紀頃、アイルランドやスコットランドのハイランド地方で、毛のついたローハイドの革に穴を開けるなどして通気や排水を考えた歩行用の靴が原型といわれている。

19世紀末に現在のような紐付の短靴として生まれ変り、20世紀の初めにスポーツ用やおしゃれなタウン・シューズとして流行したものである。

フル・ブローグとは、爪先にメダリオンという模様穴飾があり、後部の月型まで縁にピンキングといわれるギザ抜きとパーフォレートという親子穴の装飾が全体に施こされたものである。爪先がストレートチップで簡略化したものは、セミ・ブローグ、またはハーフ・ブローグともいわれ、また一部分に飾りを施こしたものをクォーター・ブローグという。

伝統的なイギリスのフル・ブローグには内羽根式と外羽根式があるが、外羽根でウイング・チップが後部まで長く伸びたものをロングウイングチップといって、アメリカン・トラディショナルに見られるパターンである。

フル・ブローグには、カーフ、コードバン、スコッチグレン、ディアースキンなどの起毛素材が用いられ、色は黒、茶系や白とのコンビネーションもある。

伝統の靴型を使用した型紙のバランスの良さが重要で、ウエルト式の底付けと仕上げの風合も大切である。そして手縫の技術も活かされ、世界のトップメーカーが個性の見せどころとしている。

フル・ブローグを履くためには、英国調の良い仕立てのスーツやジャケットとともに、それに合わせて靴下を選ぶことも大切で、正しい手入れと保存も必要である。

最近のファッションにもブローグ調がとり入れられ、婦人靴にもフル・ブローグのデザインが用いられている。

トルコ
babouche
バブーシュ

ミュールのようにかかとが開いて爪先だけを覆う履物（バックレス・サンダル）が世界中で用いられている。

バブーシュはトルコの伝統的な民族衣装とともに履かれた室内履である。

爪先が長くとがり、そり上って、先端には玉房がついているのが特徴で、甲は織物やビーズなどで刺繍したものもある。

起源はペルシャといわれ、モロッコの民族靴などもバブーシュといわれている。

full brogue

フル・ブローグ

イギリス

babouche

バブーシュ

トルコ